

令和五年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

学校推薦型選抜試験（第一回）【小論文】

試験問題

試験時間 90分

注意事項

- ・ 解答は、解答用紙に記入すること
- ・ 問題用紙及び下書用紙は、試験終了後回収する

受験番号

令和4年11月13日

以下の文を読み、設問に答えなさい。

プライドが高い人は成長しない

謙虚に人の意見に耳を傾けることは、とても重要なことです。世の中には「自信家」といわれる人がいます。

「オレは頭がいい」

「私は優秀だ」

「オレの営業成績を抜けるヤツはいないさ」

「運動神経なら誰にも負けない」

……

自信家とは、こうした人たちです。

自信を持つことは、一面ではとてもよいことです。自信を喪失して、意気消沈しては、いい仕事ができるはずはないでしょう。しかし、その自信が過剰になると、えてして傲岸不遜（うごかんふそん）になり、他者から学ぶことを拒むようになります。

これは文章力や話術に関してもいえます。
「オレは文章がうまい」

「私は話すのが得意。交渉なら誰にも負けないわ」

自信があつて、結構なことです。こうした自信を持っているのであれば、その自信は胸の内ですりそりと温めておく程度がよいでしょう。あなたが本当に文章がうまく、話し方が魅力的な人であっても、まだまだ伸びる余地はあるのですから。

「伝える力」に自信があつてもなくても、最も大事なことは「聞く耳を持つ」ことです。そして、他者の意見に「謙虚である」ことです。

イチロー選手は研究することをやめましたか？

「爆笑問題」は学びの手を緩めていますか？

いずれも「否」でしょう。

若いころ、私の知り合いに、自分が書く原稿に絶大な自信を持っている人たちがいました。デスクが書き直した原稿を後で見直したりしていませんでした。彼らのその後の人生を見ると、少なくとも「記事や原稿を書く」ことに関しては、成長があまり見られませんでした。

中央官庁のキャリア官僚と付き合うこともありました。この人、なんでこんなにプライドが高くて、エラそうな話し方をするんだろう」という人は、いつしか姿を消していきました。

反対に、ざつとばらんな性格で、こちらの話をきちんと聞いてくれる人は、どんどん出世して、官僚のトップである事務次官にまで上り詰めてたりしています。

三十数年間に及ぶジャーナリスト生活を振り返って、一つ明らかにいえるのは、よけいなプライドを持っている人は「そこまで」だということです。意味のないプライドが邪魔をして、成長できるせつかくのチャンスを自らみすみす逃してしまふのです。実にもったいないことです。

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

ビジネスパーソンはそもそも、話すことも書くことも、プロではありません。

話すほうなら、司会者やアナウンサー、落語家、漫才師などがプロでしょうし、書くほうなら、作家やエッセイスト、新聞記者、ルポライターなどがプロです。

話すのや書くのが得意であっても、ビジネスパーソンは少なくとも、その道のプロではないという自覚は持つべきでしょう。そうした姿勢を保持していたほうが結局は「伝える力」は伸びていきます。

それに、プロであっても、謙虚に学ぶ姿勢を持っていないと、成長はそこで止まってしまいます。それは、どこの世界でも同じことです。

まず「自分は何も知らない」ことを知り、他者から謙虚に学ぶことです。この姿勢さえ持ち続けていれば、コミュニケーション能力は確実に向上していきます。

特に若いときは、相手を怒らせたり、傷つけたり、誤解を与えたり……といった失敗を何度もすることでしょう。でもそのときに、自分の殻に閉じこもることなく、へこたれることなく、心を開き続けて、コミュニケーションをとり続けてほしいのです。そうすることで、「伝える力」はきつとどんどん伸びていくことでしょう。

また、若い人は特に、今のうちに「大いに恥をかく」ことです。

二十代の若手ビジネスパーソンはもちろん、場合によっては、三十代、四十代の中堅であっても、恥をかくことを恐れずに、わからないことは教えを請う気持ちで仕事に取り組むべきです。

「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と言いますが、その通りですね。謙虚に教えを請うことで、新たな知識を吸収することができる上に、こうした人の好感度は間違いなくアップします。

ただし、なんでもかんでも人から聞こうとする態度は禁物。これでは、煙たがられるのがオチです。

当然、自分でできる努力は最大限した上で、わからないことは素直に聞いて教えを請う、という姿勢こそが大切です。

出典 池上彰 著 『話す』『書く』『聞く』 能力が仕事を変える！ 伝える力』 PHPビジネス新書 二〇〇七年

設問

著者の主張を要約し、それについてあなたの考えを、一〇〇〇字以内で記述しなさい。